



【ギター大好き講座】（シリーズ第1回）

知っているようで知らないギターのあれこれ

A A F C

分科会資料

2013年6月16日

川俣 国大

【ギターの生立ち・ギターの曲】

ルネッサンス1500年～バロック1600年頃まで。

ギターの歴史に入る前にこの楽器の前身であるリュートについて少し説明をしたいと思います。まず弦の数は24本あってこの調整（チューニング）は国によって、又曲によっても異なりリュート奏者は調整だけでその半生を費やしてしまうと言われた。

弦は羊腸弦（ガット弦）を使用されていたが、今ではナイロン弦を使うようになりました。リュートはイギリスのエリザベス王朝時代に盛んに演奏されていました。フランスでもルイ14世のころ、リュートは楽器の花形であった。またスペインではリュートの代わりにビウエラが用いられていたが、その形は今のギターに似ていた。スペインでは明らかにビウエラがギターの原型であった。

参考文献 「音楽之友社出版・ギター音楽への招待」

著者 高橋 功。1999年版



♪ 本日はギターを3本持ってきました。それぞれサイズが違います。

大—668ミリ 中—665ミリ 小504ミリ です。数字は弦の長さです。

この差は、どのような違いがあると思いますか……？。では、チューニングをしてみましょう。

さて、調整も終わりましたようで、皆様の超えた耳は、もうお分かりでしょう。

音程は皆同じでした。音色は楽器によって違うことは当然です。そして音の

響き（遠達性）は大きいほどよく遠くまで届きました。では和音のコードのたかさ（ただし同じコード）では違いがあったかどうかわかりましたか？

ここで、スケールを三本とも引いてみましょう。ハ長調・二長調・ト長調の3種類を続けて3本とも引いてみましょう。みんな同じでした。



♪ここで生演奏する曲の紹介

- 1、エチュード（ジュリアーニ）
- 2、アレグロ（コスト）
- 3、涙（ターレガ）

又特殊なギターの弾き方ではハーモニックスなどの説明と、アポヤンド・アルアイレなどのタッチを説明します。

次はバッハのリユートの曲で、リユートと、ギターとで、それぞれの演奏の聴き比べをしてみましょう。

●リユート組曲 ホ長調 (プレリユード・ルール) バッハB M V 1 0 0 0

この曲はリユートの為に作曲されたものです。オリジナルの調整・調弦による作品です。

♪バロックリユウト (2 4 弦・4 コース) ルッツ・キルヒホーフ	8 : 3 6
♪クラシックギター (編曲) 中林 中や	8 : 5 3

ダウランドに【よるリユートの音楽】

ルネッサンス時代に最も活躍した音楽家

もしも私の訴えが情熱を動かせるなら (ダウランド) (テノール・ハイデンランチャード)

ルネッサンスギター ジェフ・コーガン 4 : 0 0

ファンシー (空想) ダウランド (ルネッサンスギター) ジェフ・コーガン 4 : 1 2

【ジュリアン・ブリームによるスペインギター音楽の歴史的展望】

1、ファンタジア第14番 (ムダーラ) ルネッサンスギター	1 : 5 9
2、クラロス伯爵による変奏曲 (ナルバエス) ビウエラ	2 : 4 3
3、カナリオ (ゲラウ) バロックギター	1 : 2 2
4、前奏曲とアレグロ (ムルシア) バロックギター	2 : 2 1
5、ロンド イ短調 (アグアド) クラシックギター (通常の6弦ギター)	6 : 1 9
6、魔笛の主題による変奏曲 (ソル) クラシックギター	8 : 5 4
7、前奏曲 イ短調 (ターレガ) クラシックギター	1 : 4 5
8、スペイン舞曲第5番 (グラナドス) クラシックギター	4 : 1 6

【使用楽器全てホセ・ロマニーリヨス製作】

ルネッサンスギター (1984)

ビウエラ (1980)

バロックギター (1983)

クラシックギター (通常の6弦ギター)

以上

[目次に戻る](#)